



月刊

コミュニケーション

# Communication

10月  
Vol. 29



金木犀の香りに四季の移ろいを感じる今日この頃です。  
これからの季節、果物狩り、紅葉狩りと本来なら観光に出かけるには最高のシーズンですが、今年は制約も多いことから、自宅などで趣味や読書で満喫ですね。

それでも、秋の味覚を堪能し、澄みわたる空気を感じ、軽い運動を行うなどして、健康で安全に就業いただくようお願いします。



## ◇シルバーの日「直売会」にご来場ください。

10月15日（木）から令和2年度後半の直売会が始まりました。

市民の皆さまとの交流を深める機会として生きがいセンター「太陽の家」を会場として開催し、今年で23年目（11月には150回目の開催）となります。この事業は多くの方に支援されていますが、会員の方の来場が少なく、少しばかりさみしい気がします。

直売会では季節ごとの花苗や会員手作りの木工製品やオンライン事業の製品もたくさん販売されます。今年は、シルバー設立40周年の年ともなります。

ぜひとも、この機会に独自事業の魅力ある製品を手にしてみてください。



### 《これからの開催日》

10月15日(木)・11月13日(金)・12月15日(火)・12月22日(火)

いずれの日も、午前9時から午後3時30分まで 開催しています。

## ◇「ボランティア活動」参加のお礼とご報告

9月22日のボランティア活動にご参加をいただき、ありがとうございました。

今回の活動もまた、シルバー人材センターにとって大きな啓発活動の一端となり、今後のシルバー事業の拡大に繋がるものとお礼申し上げます。

### 【活動報告】



地域名	参加者数
北部地域	15名
中部地域	11名
南部地域	14名

地域名	参加者数
西部地域	11名
天王地域	11名
三好丘地域	8名

地域名	参加者数
黒笹地域	9名
参加者合計	79名

なお、本活動は会員互助会が中心となり年2回行われます。

次回の活動にも多くの方のご参加、ご協力をお願いします。

シルバーのモットーは、「ふれあい・ぬくもり・しんせつ・ていねい」

令和2年度

みよし市シルバーの目標！

「会員登録 400名突破」です



☆耳寄りな情報はこちらまで！

シルバー事務局 ☎ 34-1988

FAX 34-2831

## Congratulations

### ◇愛知県シルバー人材センター事業推進交流大会

令和2年10月13日、名古屋市「ウィルあいち」において、日頃からシルバー事業の発展に貢献し、長年の功績と活躍が認められ、当センター会員7名の方が受賞されました。

※受賞者と受賞内容は次のとおりです。（敬称略）

☆愛知県知事賞状（模範会員）

中村鈴枝（三好上）、手塚喜之（上ヶ池）

☆愛知県知事賞状（長寿会員）

近藤田鶴子（筋生）

☆愛知県シルバー人材センター連合会表彰状

高田允（三好丘あおば）、神林義秋（平池）、  
近藤滝巳（三好丘縁）、横田愛（新屋）



### 《令和2年度9月・10月センター事業報告》

#### ホワイトボード

◎9月から10月はじめに行われた役員会の内容をお知らせします。

9月8日(火)

○理事会（第4回） 職員の服務規程と就業規則の一部改正（勤務出退をデータ化する）

事業予算の補正（会員の熱中症対策保険料（見舞金）の加入等）

○互助会（第3回） 互助会奉仕活動、グラウンドゴルフ大会開催についての検討

10月5日(月)

○女性委員会 女性会員を対象とした寄せ植え講習会打ち合わせと

ガーデンピック作りを行い、親睦と交流を図る

10月6日(火)

○広報員会 シルバーだより第63号発行と記念誌発刊に関する検討会



### ～アンケート調査にご協力いただきありがとうございました～



今回シルバー設立から40年を契機として、アンケートでは厳しいご意見や温かい励ましのお言葉なども沢山頂戴しましたことに感謝申し上げます。

皆さまからいただいた貴重なご意見を真摯に受け取り、少しでも皆さまが安心して、安全で健康的に就業していただけるよう今後も事業の充実と拡大のため、事務局一同努力してまいります。

なお、アンケートの調査結果については十分検討した上、11月月配分金明細に同封させていただく予定です。

### 編集後記

10月1日、シルバー人材センターが設立して40年を迎えました。

一般に丸のつく年を節目の年といいますが、「節目」の語源は「竹の節」といわれます。



竹の中身は空洞ですが、この節があることで支えられ伸びることができます。

そういう意味から「節目の時期」「節目の年」など年月や人生に対して節目という言葉が多く使われるを考えられているそうです。

みよし市シルバー人材センターも竹の節のように40年の節目を飛躍するための新たな契機として、次の節がしっかり育てられるよう、皆さんのご支援とご協力を願いします。



（編集・校正 Katoh）